

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 https://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむを得ない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
単元株式数	100株

ご注意

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シツキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州(現在の山口県)の出身であること、また幕末長州藩の一家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城(指月城)から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807
<https://www.shizuki.co.jp>



株主通信

第94期 報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

メッセージ

一枚岩の、経営へ。



証券コード 6994 / スタンダード市場
株式会社 指月電機製作所

一枚岩の、経営へ。

厳しい逆風の中、コスト改善力を強化。 「経営基盤の確立」へ向け、一歩手応え。

代表執行役社長
足達 信章

私たち指月電機グループは、長期経営ビジョン(2019年度～2028年度)の実現に向けて中期経営計画を策定し、一丸となって取り組みを進めてきました。第1ステップである

2019-2028年度

長期経営ビジョン

10年後の指月グループのあるべき姿

挑戦する社風へと変革し、
品質第一のモノづくりと、
未来を見据えた新技術・新商品の開発、
グローバルな事業展開の推進により、
社員の夢を実現し社会に貢献する
企業グループになる

第I期(2019年度～2021年度)では、産業機器、自動車機器(xEV)、電力機器(力率・品質改善)、環境・省エネ機器の事業推進を重点施策として、10年後のあるべき姿、そして、100年企業に向けた「経営基盤の確立」に努めてまいりました。その締めくくりの年となった2021年度、グループ連結売上高は前年度比9.4%増加の23,874百万円、営業利益は42.6%増加の996百万円となり、大幅な増益のもと第II期へとバトンをつなぐことができました。

半導体を中心とした電子部品の供給逼迫や、ウクライナ情勢の悪化などによる原材料価格やエネルギー価格の高騰に加え、長引く円安が部材調達コストを押し上げ、予断を許さない状況が続いております。しかし、そのような逆風の

中にあっても、従業員一人ひとりが部門や拠点の垣根を越えて知恵を出し合い、「コスト改善」に徹底して取り組んでくれました。

みんなが力を合わせ、「知」を融合させながら、日々さまざまな課題に向き合って問題点を解決し、立ち止まることなく自らを変え続けていく。まだまだ先の長い道のりではありますが、このような企業体質が少しずつ根づきはじめ、コスト改善力の強化につながったのではないかと考えます。厳しい逆風にも耐えうる経営基盤がかたちになりつつある今、つづく第II期はその基盤のうえに、さらなる挑戦を重ねていく所存です。

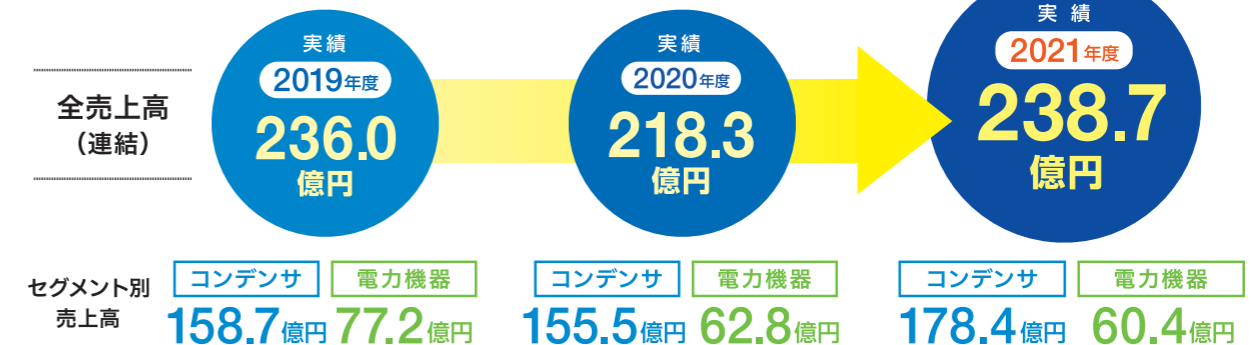
中期経営計画

第I期 2019～2021年度

第II期 2022～2024年度

第III期 2025～2028年度

第I期には、産業機器、自動車機器(xEV)、電力機器(力率・品質改善)、環境・省エネ機器の事業推進を重点施策として、10年後のあるべき姿、そして、100年企業に向けた経営基盤の確立に努めます。



メッセージ

拠点を越えた「知の融合」が、 QCDをより高い次元へ導いていく。

中期経営計画の第I期では、グループ全体の連携による「知の融合」に取り組み、一人ひとりが自分たちの本来あるべき姿を見つめ、「より良い事業運営の方法」や「日々の仕事の進め方」について考え、知恵を出し合ってきました。

産業機器の分野では、まだ取り組みの半ばではありますが、開発・製造・販売の融合により、現場のメンバーが主体となって営業の方法や設計の進め方を変え、新たな工夫が生まれ、お客様にもその効果を少しずつお届けできるようになってきています。第II期でこのかたちをさらに磨き上げ、

運用を強化していくフェーズに移行してまいります。

自動車機器(xEV)においては、すでにさまざまな場面で知の融合が進んでいます。たとえば、遠く拠点が離れた岡山指月と秋田指月で、生産ラインを担うコアメンバーたちがチームとして協働し、お互いの現場の良いところを活かした「モデルライン」の構築を目指して具体的な活動を進めています。

冒頭のメッセージで申し上げた「コスト改善」だけでなく「品質」や「納期」の面でも、こうした活動の成果が表はじめています。一般的には、コストを優先すれば品質が下がる、品質を重んじればコストや納期に影響が出ると考えられがちかもしれませんが。しかし私たちは、QCD(品質・コスト・納期)は本来、三位一体で成り立つものであり、徹底してコ

スト低減に努めたムダやロスのない生産ラインは結局、品質向上や生産リードタイムの短縮につながると考えています。このようなシツキの目指すべきモデルラインが、知の融合によってかたちになろうとしています。

ビジネスチャンスを一早く掴み、 一日も早く、実証、実現へ。

電力機器の分野では、「ベースとなる技術力を高めること」と「お客様の新しいニーズを汲み取ること」の二軸を掛け合わせ、新しいチャレンジが次々と生まれています。2021年度の下期にスタートした企画営業部が機能して、お客様からいち早くビジネスチャンスを引き込み、その動きに呼

応するように、技術を担うメンバーたちもスピード感を持ってサンプル品をつくり、お客様に速やかに提案を行い、実証フェーズへと進んでいく。チームが一枚岩になってきたことで強力な連携体制が生まれ、自分たちの手でビジネスチャンスを広げていこうとする気運が高まっています。

2022年7月からは、このような融合をさらに強化するべく「事業部制」をスタートします。もちろん、組織を変えただけでは、何も良くなりません。各人の仕事の取り組み方を変えてこそ、はじめていろいろな物事がより良い方向へ向かって進み出します。実際にそれぞれの事業の運営を担う中核メンバーたちが、そのことをしっかりと理解し、チームづくりを進めてくれています。

長年掲げてきた経営方針から、 改めて、本質を学ぶ。

シツキには、1980年代から40年近くにわたって大切にしてきた「JIS(S(シムス))」という経営方針があります。

私は今、毎日この言葉を読み返しています。第I期で取り組んできた「経営基盤の確立」に必要なことは、元々ここに、すべて書かれている。そんな想いで一言一句を噛みしめ、日々の糧としています。

私たちシツキはこれからも、「長期経営ビジョン—10年後の指月グループのあるべき姿—」の実現に向け、グループ一丸となって挑戦を重ねていきます。株主の皆さまにおかれましても、ご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

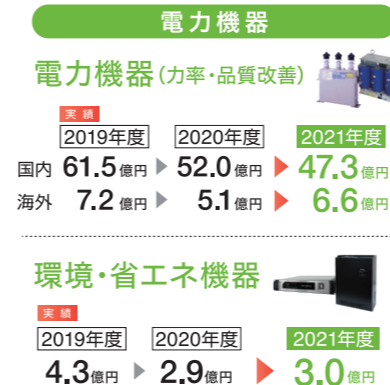
一人の力は弱くても、一つになれば、強い。

< 経営指標 >

	中期経営計画 第I期 (億円)		
	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	236.0	218.3	238.7
営業利益	11.8	7.0	10.0
営業利益率(%)	5.0	3.2	4.2
親会社株主に帰属する当期純利益	7.0	11.6	9.5
当期純利益率(%)	3.0	5.3	4.0
ROA(%) <総資産営業利益率>	4.0	2.3	3.1
1株当たり当期純利益(円)	21.4	35.1	28.7

実績

< 重点施策の売上高(連結) >



経営の基本方針『JIS』

指月グループの限りなき存続と発展のために、各人の限りある時間と限りなき知恵を駆使して、日常業務遂行の中で創意工夫並びに改善努力を積み重ね、品質の確保と合理性を追求し、如何なる環境の変化にも機敏に適応しうる企業体質を作る

中期経営計画 第Ⅱ期 始動

新たなステージへの「挑戦」

第Ⅰ期
経営基盤の確立

第Ⅱ期
事業成長に向けた、攻めの経営へ。

指月電機グループは、中期経営計画第Ⅱ期（2022年度～2024年度）の計画を発表し、既にその遂行へ向け、グループ全社が一丸となって取り組みを進めています。第Ⅰ期では、「経営基盤の確立」というテーマのもと、「知」の融合や日々の改善を徹底してきたことで、コスト改善力や収益力の強化を遂げ、数値としても成果が表れ始めています。私たちはその確かな基盤のうえに、さらなる「挑戦」を重ね、長期経営ビジョンの実現へ向けて力強く邁進していきます。

1 パワーエレクトロニクスの進化に応え、フィルムコンデンサ事業のシェア拡大を目指す。

2 エネルギーマネジメントの新たなニーズに応え、電力・環境省エネ分野での新事業の創出に挑戦する。

3 基礎力向上のテーマについて全社統合の取組みを推進し、事業拡大と人材育成を加速する。

中期経営計画第Ⅱ期の取り組み

電気エネルギーの効率的な活用を支え、安全で快適な脱炭素社会の実現に貢献するシツキの事業



電気に関わる多様なシーンに貢献



社会課題の解決へ貢献

安心・安全で快適な社会の実現 持続可能な地球環境の実現

サステナビリティの実現に向け、機能拡大と技術の高度化を推進する



求められるニーズに対応

加速する脱炭素化の流れと共に、さらなる事業の拡大をはかる

パワーエレクトロニクス技術の拡大

環境・省エネニーズの高まり

- 小型化
- 高性能化
- 高信頼性・安全性
- 低価格
- 個別最適化
- IoT活用
- 低損失化
- 低価格

中期経営計画第Ⅱ期 数値目標

長期経営ビジョン

挑戦する社風へと変革し、品質第一のモノづくりと、未来を見据えた新技術・新商品の開発、グローバルな事業展開の推進により、社員の夢を実現し社会に貢献する企業グループになる

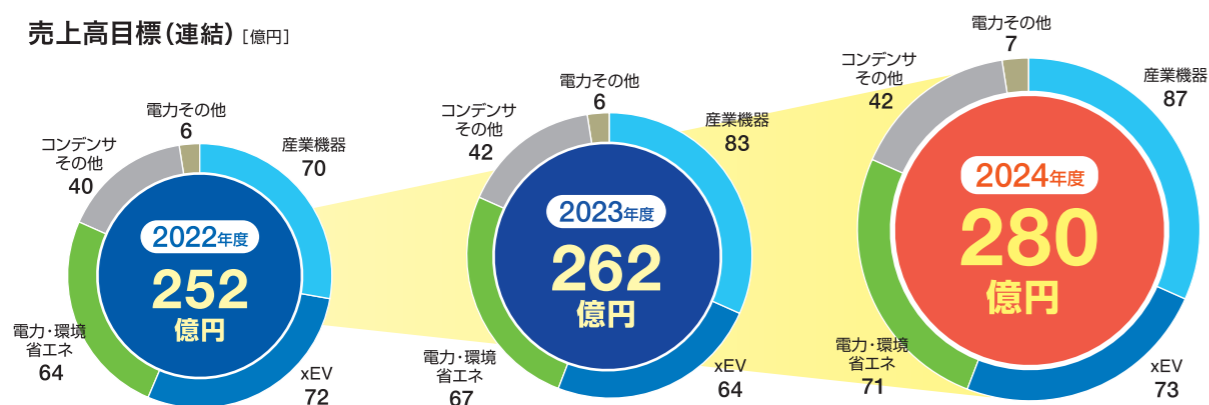
中期経営計画

第Ⅰ期 2019～2021年度

第Ⅱ期 2022～2024年度

第Ⅲ期 2025～2028年度

売上高目標(連結) [億円]



コンデンサ 182億円 電力機器 70億円

コンデンサ 189億円 電力機器 73億円

コンデンサ 202億円 電力機器 78億円

営業利益 15億円 営業利益率 6.0% 配当性向 30%↑

営業利益 20億円 営業利益率 7.7% 配当性向 30%↑

営業利益 23億円 営業利益率 8.1% 配当性向 30%↑

第Ⅱ期には、パワーエレクトロニクスの普及に貢献するため、事業拡大を強力に推進します。また、エネルギーマネジメントのニーズの高まりを見据え、製品の機能拡張や市場開拓に挑みます。

重点事業と基本方針

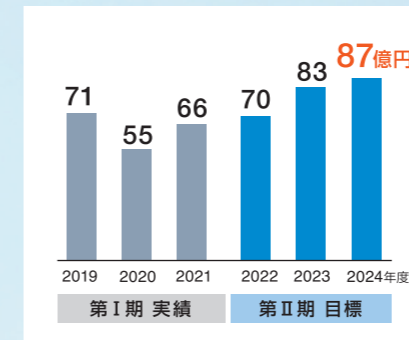
コンデンサ・モジュール

産業機器

顧客対応力の強化を図り、市場ニーズを具現化する要素技術と業界No.1のカスタマイズ力を実現し、成長軌道への回帰を果たす。



売上高目標(連結)



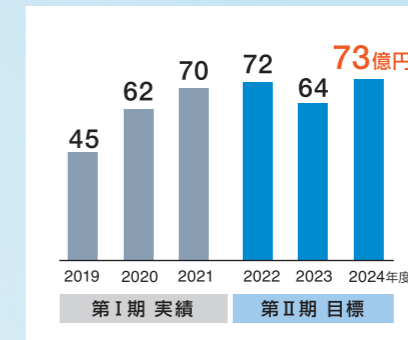
xEV*

市場シェアの獲得により、業界での存在感と影響力をもつポジションを確立する。

*xEVは、電気自動車、ハイブリッド車などの電動車の総称。



売上高目標(連結)



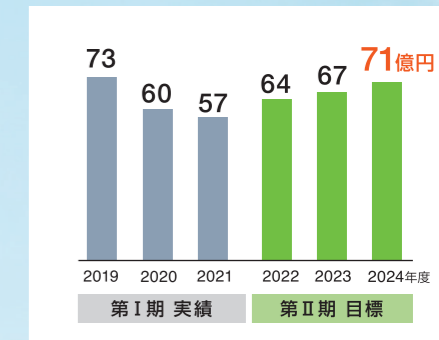
電力機器システム

電力・環境省エネ

EMS(エネルギーマネジメントシステム)、電力供給市場の変化を捉え、新商品提案による市場創出と既存商品の付加価値向上による利益拡大を両立させ、事業拡大を目指す。



売上高目標(連結)



ESGの取り組み

企業の持続的な成長を、持続可能な社会の実現へとつなげていく。

指月電機グループは、ESG経営の考え方に基づき事業推進に取り組むことで、持続的成長と企業価値の向上を実現するとともに、SDGsの達成に向けて、環境や社会に関わる課題の解決にチャレンジしていきます。

E
Environment
環境

- 事業活動をとおり、省エネ技術の普及とCO₂削減へ貢献する
- 自社でのCO₂排出量の削減と環境に配慮した材料等の検討を進める

S
Social
社会

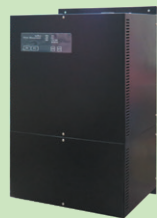
- 多様な人材・能力・働き方を尊重し、イノベティブな企業を目指す
- 人材育成により高い技術力を獲得し、社会インフラの安定化に貢献する
- 一層の品質レベル向上により顧客満足度の向上を図る

G
Governance
ガバナンス

- 市場の要請に迅速に応える運営体制を構築する
- 全方位でのパートナーとの連携を強化、拡大する
- 企業価値向上視点を盛り込んだコンプライアンス経営を拡大展開する

環境意識の高まりに応え、 省エネ製品の需要拡大

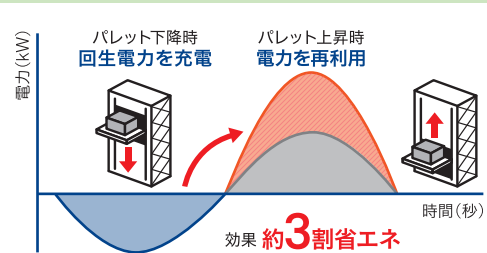
電力回生用インバータ装置



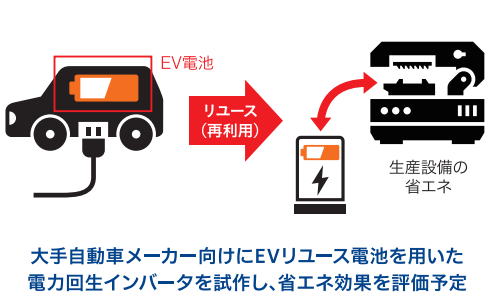
「電力回生用インバータ装置」は、工場設備や立体駐車場、昇降機などの回生電力を利用する省エネ製品です。例えば、立体駐車場の場合、車両を載せたパレットが下降する際に発生する回生電力を充電し、パレットが上昇する時の電力をアシストすることで、これまでロスしていたエネルギーを有効に活用し、大幅な省エネをはかることができます。また、回生電力を蓄えておくことで、災害による停電時にも車両の出庫が可能になるなど「BCP」対策の観点からも注目が集まっています。

技術としては新しいものではなく、既に確立されている装置ですが、近年、社会的な環境意識の高まりを受けて、需要が増加。シヅキでは、お客様のご要望や使用環境に合わせて製品を最適なかたちにカスタマイズすることで、より高い省エネ効果をお届けし、お客様の満足と、脱炭素社会に向けたアクションを支えています。

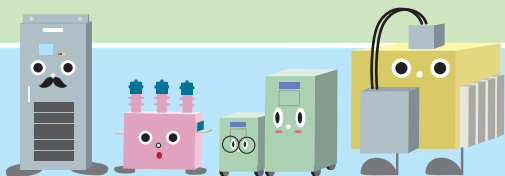
事例1：垂直搬送機の省エネ化



事例2：EVリユース電池を活用した工場整備の電力回生



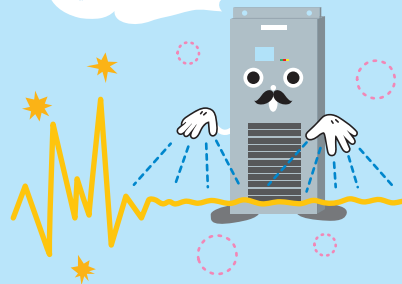
教えて！ デンリョくん



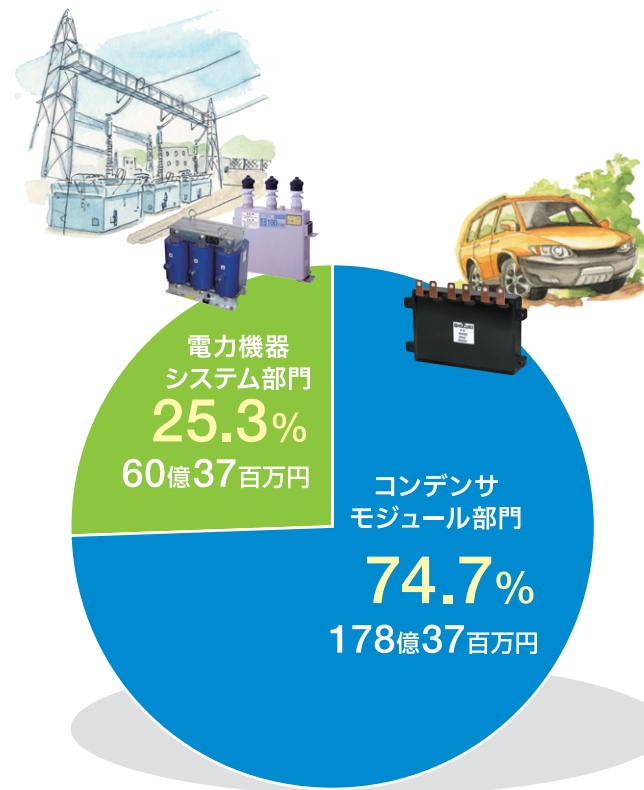
エレクトロニクスの発展を
影で支えておるのじゃ。

「高調波」を防げば、まわりの機器たちも絶好調!??

「インバータ」って聞いたことあるかな？ 蛍光灯からエアコン、エレベータ、電車まで、たくさんの機器に使われていて、周波数や電圧・電流をコントロールすることで滑らかな運転や省エネに役立っているんだ。でもちょっと困ったことに、インバータから「高調波」という電流をひずませる波が発生して、まわりの機器たちが温度上昇や異音・誤動作を引き起こしてしまうことも……。そこで登場するのが、心強いボクたちの仲間「高調波抑制装置」！ 高調波を見つけて打ち消すことで、まわりの機器への電気障害を防いでいるんだよ。



2021年度通期の業績概要



連結売上高

238億74百万円

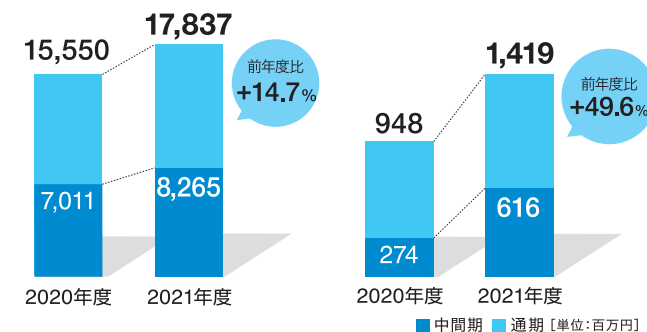
※セグメント別の営業利益については、調整額△1,815百万円があります。
(セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用)

コンデンサ・モジュール部門

xEV用、大型パワエレ等の産業機器用、家電用等のコンデンサが好調に推移しました結果、売上高は17,837百万円（前年度比14.7%増）となりました。

売上高
178億37百万円

営業利益
14億19百万円

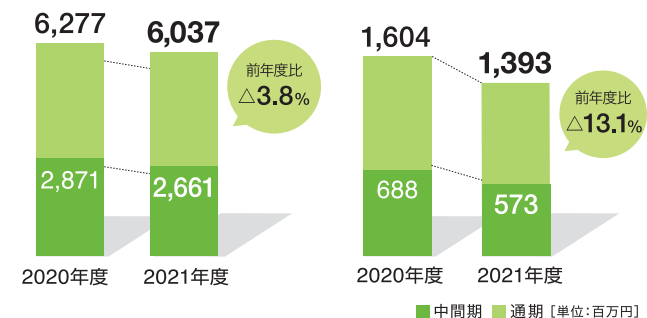


電力機器システム部門

力率改善装置および電力品質改善装置は設備投資の需要が依然回復せず、低調に推移いたしました。結果、売上高は6,037百万円（前年度比3.8%減）となりました。

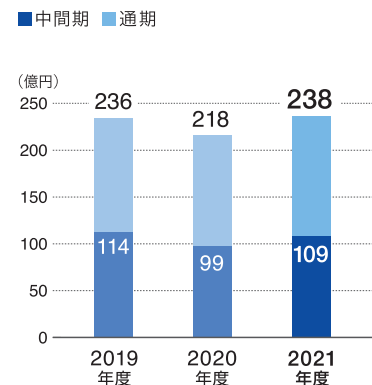
売上高
60億37百万円

営業利益
13億93百万円

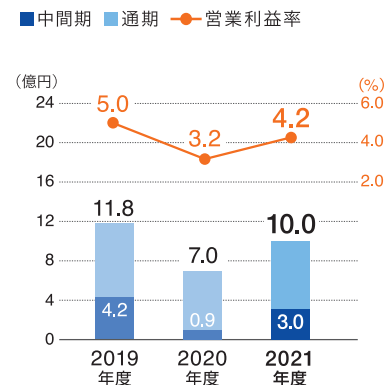


財務ハイライト

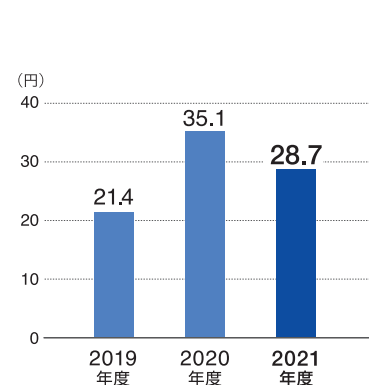
売上高



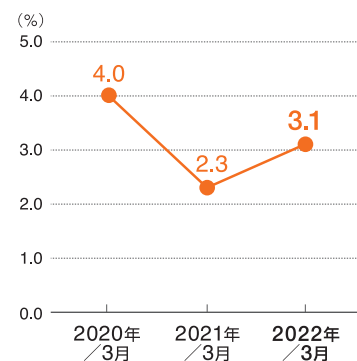
営業利益・営業利益率



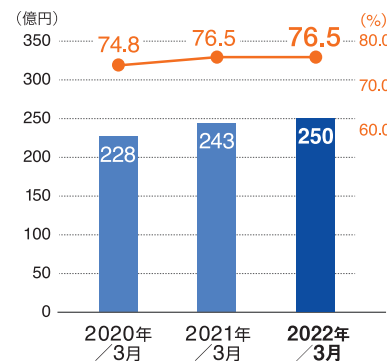
1株当たり利益 (EPS)



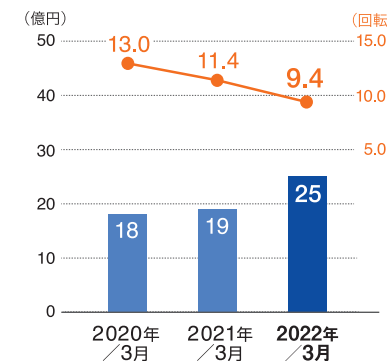
総資産営業利益率 (ROA)



純資産残高・自己資本比率



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



売上高は、電力機器システムの国内需要が依然として回復せず低調となった一方で、コンデンサ・モジュールでは、xEV用コンデンサが大きく伸ばしました。全体として前年度を底に業績は回復し、前年度比9.4%増収の238億74百万円となりました。また、営業利益は、部材価格高騰の影響を受けたものの、売上高の増加やコスト改善での吸収により、前年度比で増益となりました。

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	第93期 通期 2021年3月31日現在	第94期 通期 2022年3月31日現在
資産の部		
流動資産	15,429	15,881
現金及び預金	5,682	4,051
売上債権	7,712	9,019
棚卸資産	1,915	2,547
その他資産	118	263
有形固定資産	12,771	13,218
無形固定資産	448	509
投資その他の資産	2,705	2,535
資産合計	31,355	32,144
負債の部		
流動負債	3,789	3,817
固定負債	3,230	3,361
負債合計	7,020	7,179
純資産の部		
株主資本	21,523	22,136
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	4,276	4,276
利益剰余金	12,266	12,880
自己株式	△ 21	△ 21
その他の包括利益累計額	2,453	2,445
非支配株主持分	357	382
純資産合計	24,334	24,964
負債純資産合計	31,355	32,144

連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	第93期 通期 2020年4月 1日から 2021年3月31日まで	第94期 通期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで
売上高	21,827	23,874
売上原価	16,720	18,654
売上総利益	5,107	5,220
販売費及び一般管理費	4,408	4,223
営業利益	698	996
営業外収益	690	640
営業外費用	279	273
経常利益	1,109	1,364
特別利益	22	—
税金等調整前当期純利益	1,131	1,364
法人税、住民税及び事業税	369	316
法人税等調整額	△411	85
当期純利益	1,173	962
非支配株主に帰属する当期純利益	15	15
親会社株主に帰属する当期純利益	1,158	946

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	第93期 通期 2020年4月 1日から 2021年3月31日まで	第94期 通期 2021年4月 1日から 2022年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,522	196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,405	△2,036
財務活動によるキャッシュ・フロー	△210	163
現金及び現金同等物に係る換算差額	66	45
現金及び現金同等物の増減額	974	△1,630
現金及び現金同等物の期首残高	4,707	5,682
現金及び現金同等物の期末残高	5,682	4,051

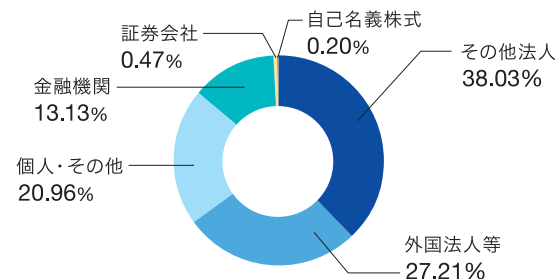
株式の状況

2022年 3月31日現在

株式の状況

発行可能株式総数	128,503,000株
発行済株式総数	33,061,003株
株主数	3,652名

所有者別株式数分布状況



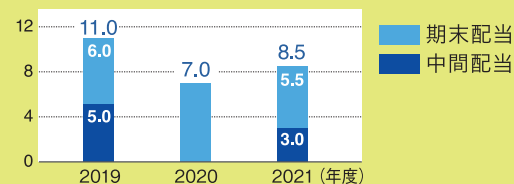
株価の推移(円)



期末配当金
1株当たり
5.5円

- 期末配当金 1株当たり5円50銭
- 支払対象者 2022年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
- 支払開始日 2022年6月9日

1株当たりの配当実績(単位:円)



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.2
株式会社村田製作所	4,471	13.5
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	4,154	12.6
NOMURA CUSTODY NOMINEES LTD - TK1 LIMITED	2,037	6.2
NCSN-SHOKORO LIMITED	1,522	4.6
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
指月協友持株会	946	2.9
株式会社みなと銀行	925	2.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	863	2.6
MSIP CLIENT SECURITIES	506	1.5

(注)持株比率は、自己株式(64,512株)を控除して計算しております。

会社概要

2022年 3月31日現在

会社概要

商号	株式会社指月電機製作所
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
本社所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821
ホームページ	https://www.shizuki.co.jp/
創業年月日	1939年 3月10日
設立年月日	1947年 9月 1日
資本金	5,001,745,595円
グループ人員数	1,424名
主要取扱業務	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンデンサ及び関連機器・装置の製造販売 ■ 電力機器・装置の製造販売
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京支社 ● 東京支店／関西支店／中部支店 ● 仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	300,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	300,000千円	100.0

関連会社

社名	資本金	出資比率(%)
株式会社 村田指月 FCソリューションズ	100,000千円	35.0

役員

取締役 取締役会会長	足達 信章*
取締役	大槻 正教*
取締役	小山 義雄
取締役	谷 和義*
取締役	松尾 誠人*
取締役	奥西 啓祐*

*は執行役を兼任 ※は社外取締役

執行役

代表執行役社長	足達 信章
常務執行役	大槻 正教
執行役	小田 敦
執行役	相原 宏則
執行役	牧添 浩明
執行役	稲垣 裕一

生産・販売子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千パーツ	70.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0